

市町村名	伊是名村						
平成 2 6 年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	伊是名らしい古民家修復・復元事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(6)-7	
担当部署名	企画政策課	事業実施（予定）年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性に応じた生活基盤の整備 Ⅲ-9	
事業内容	本村における貴重な資源である古民家の修復や、古民家が消失し空き屋敷となっている敷地に古民家（赤瓦屋根・サンゴ石垣・屋敷林）を復元し、Uターン・Iターン者向け定住住宅として定住促進を図るとともに観光地としてのイメージアップを図る。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	68,466	0	92,471	0	
		(b) 予算現額	82,502	8,871	92,471	0	
		(c) 増減額 (b-a)	14,036	8,871	0	0	
		(d) 繰越額	—	54,655	—	67,751	
		A. 計 (b+d)	82,502	63,526	92,471	67,751	
	B. 執行済額		8,164	63,526	24,720	55,468	
	うち交付金充当額		6,531	50,821	19,775	44,374	
	次年度繰越額		54,655	—	67,751	—	
	執行率（％）(B/A)		9.9%	100.0%	26.7%	81.9%	
予算の状況の説明		当初古民家修復1棟、復元1棟を予定していたが、修復については未実施となった。また、外構工事については単独事業で実施したこと等の理由で執行率が低くなった。また、復元工事実施に伴う運搬路選択について、地元や観光団体等との調整に不測の日数を要したため67,751千円を平成27年度に繰越した。					
活動目標（指標） 及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	定住促進住宅整備に係る古民家修復(1棟)、古民家復元(1棟)、修復・復元実施設計、古民家修復・復元工事監理業務の実施	目 標	(修復工事2棟 復元工事1棟)	(修復工事1棟 復元工事1棟)	()	()	
		実 績	修復工事1棟	復元工事1棟			
	定住促進住宅に係る用地購入	目 標	(用地購入3件)	(用地購入1件)	()	()	
		実 績	用地購入1件	用地購入1件			
達成状況説明	平成25年度に修復住宅と復元住宅の実施設計を実施し、このうち平成26年度は古民家復元住宅1棟の整備と工事監理業務を実施した。また、それに伴う用地購入を行った。 修復工事については、平成25年度繰事業で修復物件の解体工事をする事となっていたが、解体の着手が遅れたことで修復工事を平成27年度に実施することとした。						
成果目標（指標） 及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
	古民家修復と復元を行い、Uターン・Iターン者向け定住住宅2世帯の供給と同時に伊是名らしい景観形成の創出	目 標	()	(3世帯)	(2世帯)	()	()
		実 績		0世帯	0世帯		
	進捗状況説明	平成25年度繰古民家修復住宅1棟(平成27年3月完成)、平成26年度繰古民家復元住宅1棟(平成27年6月完成)をそれぞれ整備した。住宅供給については、平成27年3月に設置条例、管理規則等を制定するにとどまったため、平成26年度中の古民家定住住宅供給は達成できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本事業は、本村の貴重な資源である古民家を修復・復元し、Uターン・Iターン者向け定住促進住宅並びに地域の観光資源として活用するために平成25年より取り組んできた。しかしながら、修復工事の場合、工期が長期化し、費用も嵩むことから修復工事についての方針を検討する。特に、工期が長期化したことで、2年間成果目標を達成できていない。 古民家が地域にとって大切な資源であると改めて認識させる結果へとつながり、住民意識にも少しずつ変化がみられるようになった。	修復については、平成25年度事業で2棟の実施設計を実施しており、工事についても残り1棟となっている。平成27年度で残りの修復工事が完了するため、今後の修復工事については、実施するかどうかを十分検討した上で決定する。古民家復元工事については、年1棟ペースで確実に移住者を受け入れることができるため、復元工事を中心に今後は事業を推進したいと考える。
今後の取り組み方針		
完成した2棟の古民家について、インターネットを利用して村内外に広く呼び掛け入居募集を行なう。 平成27年度に整備する古民家修復工事については、年度内完成・入居者決定できるよう、取り組んでいく。また、今後の整備箇所について、地域の代表者らと協議し決定する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
伊是名村 55,468千円 委託料 1,382千円 美音Space Design (株) 1,382千円 伊是名らしい古民家【復元】工事工事 監理業務委託 工事請負費 52,039千円 株式会社 喜神サービス 52,039千円 伊是名らしい古民家【修復】建築工事 伊是名らしい古民家【復元】建築工事 用地購入費 2,047千円 個人 建築用地購入 1件				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		55,468	55,468	44,374
				市町村負担金
				11,094
				交付対象外経費
				0
資金の 使途の 流れ、 検 査 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。	
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○年度途中の進捗を把握できなかったことで多額の不用額を出すこととなったため、事業内容に変更が生じた場合の手続きを確実に進めるよう改善する必要がある。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業完了後の検査を実施し、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		